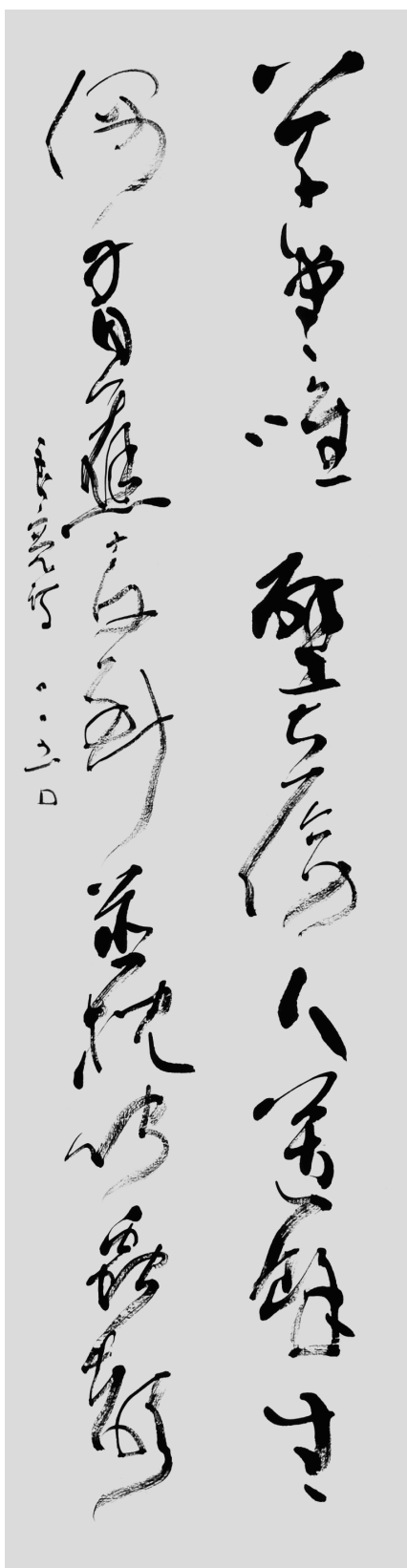


10月25日正午必着

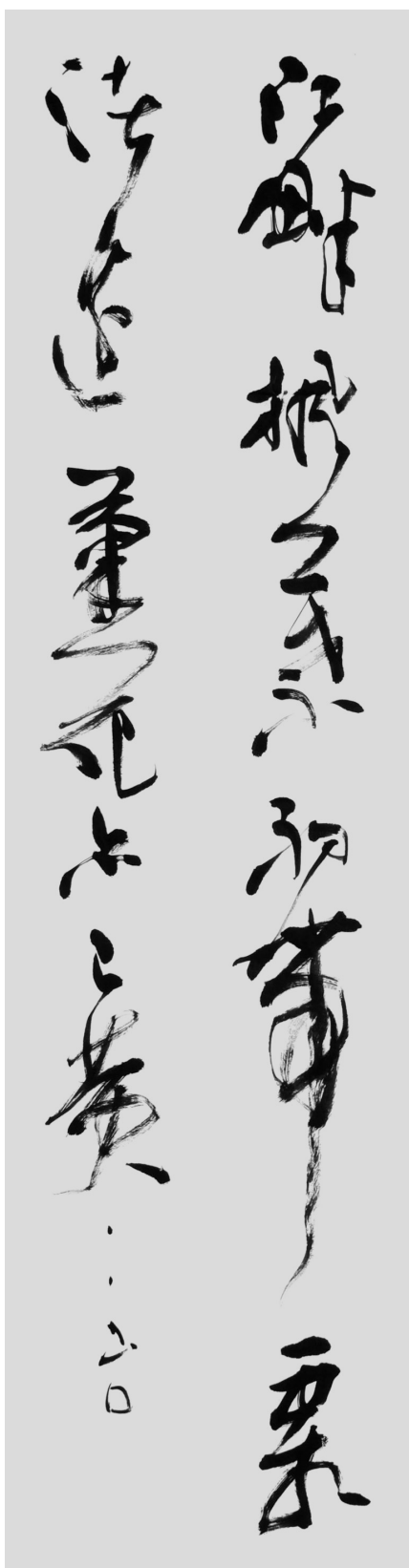
明石春浦先生書



草堂唯壁立 傍人送餘生
そうどうただへきりゅう たまたまきゅうゆうのいたるあり
 偶有舊友到 並枕聞蟲聲
otto yū kyūyū tō nōzhen kōmōsei
 (良寛)

庵は壁のめぐるだけ。人のおかげで世を送る。
 折よく友が訪ね来て、枕並べて虫を聞く。

明石幸子書



江畔楓葉初帶霜 渚邊菊花亦已黃
こうはんのふうようはじめてしもをおび しょへんのきつかまたすでにこうなり
 (賈至)

川辺の楓葉は初霜に酔い、岸べの菊花も早や色づいた。

霜天起長望殘月生海門風靜夜潮
滿城高寒氣昏故人何寂寞久已乖
清言明發不能寐徒盈江上尊・書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

霜天起長望そうてん たちてちやうぼうすれば 殘月生海門ざんげつ かいもんよりしやうす
故人何寂寞こじん なんぞせきむかる 久已乖清言ひさしくすでせいげんをそむく
風靜夜潮滿かせしずかにやちやうみち 城高寒氣昏しんたかく かんきくろし
明發不能寐めいはつ いたすひにみたり 徒盈江上尊こうじやうのそん (王昌齡)

冷露滴而朝凝(賈林)

冷露滴りて朝に凝る

露がこおって朝には霜となる季節となった。

朱果繁霜後 甘甜半自零
忽驚林色曙 零落見殘星

朱果繁霜の後 甘甜半は自ら零つ
忽ち驚く林色曙け 零落して殘星を見る

柿も熟して半ば木を放れてしまった晩秋の古寺や古村などの光景であろう。

送成州程使君(岑参)

成州の程使君を送る 岑参

程侯新出守 好日發行軍
拜命時人羨 能官聖主聞
江樓暗寒雨 山郭冷秋雲
竹馬諸童子 朝朝待使君

程侯 新たに出でて守たり 好日 行軍を發す
命を拜して 時人羨み 官を能くするは 聖主聞く
江樓 寒雨に暗く 山郭 秋雲に冷やかなり
竹馬の諸童子 朝朝 使君を待たん

さ夜ふけて訪ひよる人の水音に軒のこほろぎ聲なきやみぬ (伊藤左千夫)

半紙部規定課題A

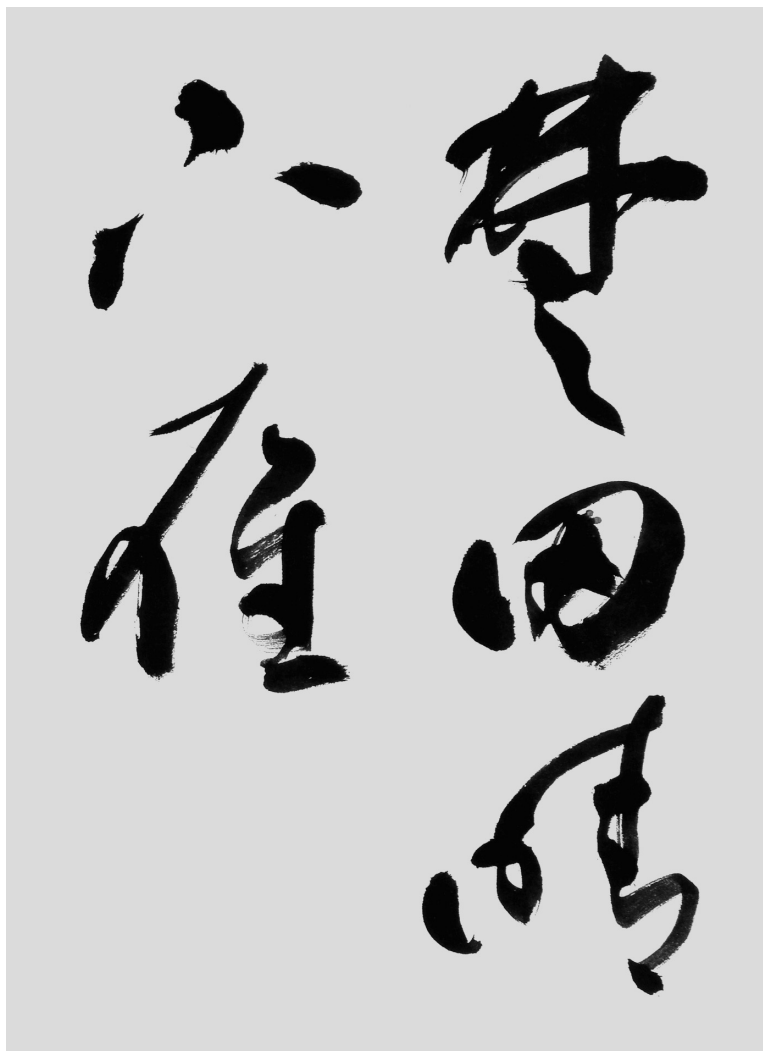
10月25日正午必着

下 楚
雁 田
晴

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



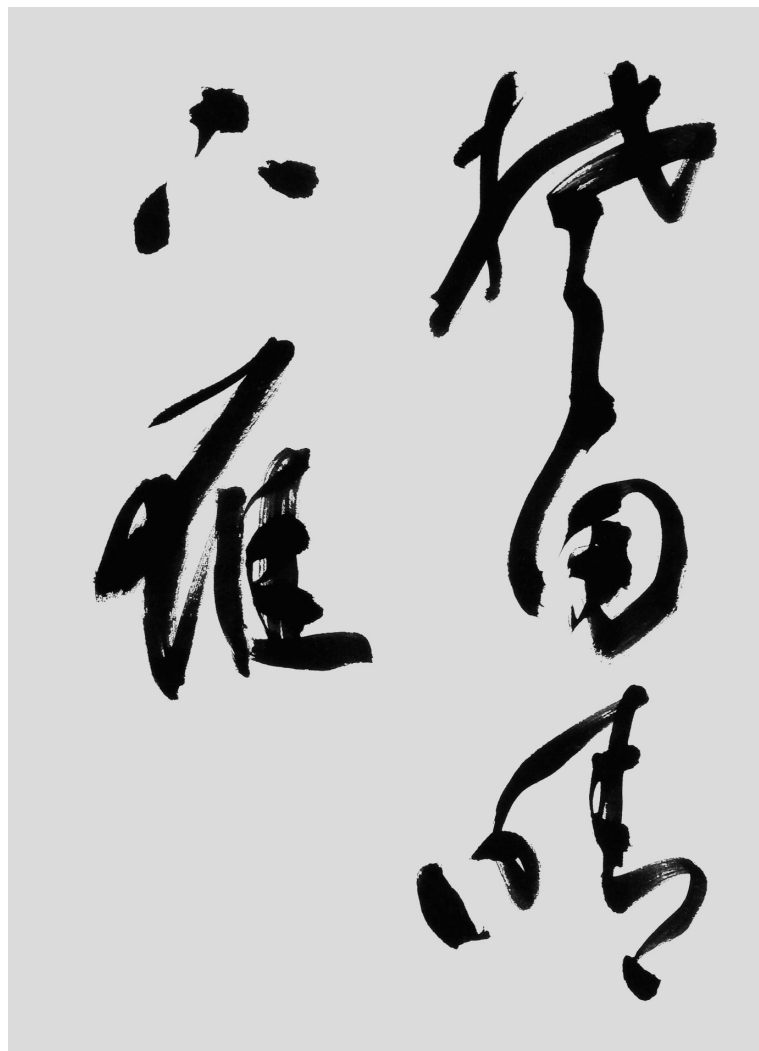
草書



行書



隸書



行草書



篆書

送曹椅一 司空曙

青春三十餘
衆藝盡無如
中散詩傳畫
將軍扇賣書
楚田晴下雁
江日暖多魚
惆悵空相送
歡遊自此疎

曹椅を送る 司空曙

青春三十餘
衆芸 尽く如く無し
中散の詩は画を伝え
將軍の扇は書を売る
楚田 晴れて雁を下し
江日 暖かくして魚多し
惆悵として 空しく相送る
歡遊 此れ自り疎ならん

齡三十余りの若さを以て 諸芸はみな及ぶものがない
嵇康のごとく、その詩は絵画に描かれて伝えられ 王羲之のごとく、扇に書かれた文字が売られる
楚の地の田野は晴れわたって雁が下りたち 江のほとりに日は暖かく、魚が数多く泳いでいる
悲しみ嘆きつつ、さびしく君を送る これからは楽しく遊ぶことはめったになかろう

10月25日正午必着

謙亨。君子有終。彖曰。謙亨。天道下濟而光明。地道卑而上行。天道虧盈而益謙。地道變盈而流謙。鬼神害盈而
 而光明。地道卑而上行。天道虧盈而益謙。地道變盈而流謙。鬼神害盈而
 益謙。地道卑而上行。天道虧盈而益謙。地道變盈而流謙。鬼神害盈而

謙、亨。君子有終。彖曰。謙亨。天道下濟而光明。地道卑而上行。天道虧盈而益謙。地道變盈而流謙。鬼神害盈而
 謙は、亨る。君子終り有り。彖に曰く、謙は亨る。天道は下濟して光明なり。地道は卑くして上り行く。天道は盈を虧きて謙に益し、地道は盈を変じて謙に流し、
 鬼神は盈を害して（謙）に福し、

西 墨濤先生臨書

鬼神害盈而流謙

鬼神は盈を害して

清 鄧石如・『周易』謙卦六屏

鄧石如（一七四三〜一八〇五）名は琰、字は石如。後に石如を名とし、字を頑伯と改めた。皖公山の麓に居をかまえていたことから、完白山人とも号した。官途には就かず、名家を訪ね、各地を放浪しながら書を学び、書や印を売って生計を立てた。篆刻の技に秀でたものがあつたが、篆書や篆刻は父親の木斎から教えられたもので、特に師匠についているわけではない。

篆隸楷行草の各体及び、篆刻に多大な功績を残したが、あらゆる漢碑を臨書し、秦漢の篆隸という古い書体を血の通う生きた書風を蘇らせ、その結構は厳整にして変化きわまりなく、むしろ雄偉な風格を形成した。包世臣の『芸舟双楫』では清朝第一の大家として賞揚しており、正に碑字派の棟梁としてふさわしい存在である。

書道のことを中国では書法という。中国人には自己の書法の確立という意識が強いかもしれない。ところが鄧石如の隸書においては一作ごとに異なった意趣があり、年代の進行に伴ってその心境が変化して固定することがない。自己の書法の完成といった卑俗な意識が無かつたのであろう。古典を真つ向から捉え、さらに真つ向から新たな創造に結実させた墨跡は貴重なものとなる。

この書は『周易』（中国の古典である易経に記された占術）六十四卦のうちの十五番目の謙の卦を隸書で書かれたもので、篆書に多く見られる表現方法があり、鄧石如独特の隸書表現と言われている。最晩年の六十三歳の時に書かれた名品の一つとされる。

天道虧盈而益謙
地道變盈而流謙

天道は盈を虧きて謙に益し、地道は盈を流して謙に流し、

△倣書参考△

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

真成薄命久尋思
王覺後疑火照西宮知夜飲
分明複道奉恩時

倣部碩伯筆意
幽棲墨濤書

眞成薄命久尋思

夢見君王覺後疑

火照西宮知夜飲

分明複道奉恩時（王昌齡）

※落款部分の碩伯||鄧石如の字

容止若思言辭安
定篤初誠美慎終
宜令榮業所基

。 。
寫口

玄和細字用紙

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ¥550―税込、送料別）

西 墨濤先生書

紅梅の
花に
ふりそぐ
はるさめ
さむし
雪に
かならむ

能多の
紅梅の
花に
ふりそぐ
はるさめ
さむし
雪に
かならむ



松永翠舟先生書

能多の
紅梅の
花に
ふりそぐ
はるさめ
さむし
雪に
かならむ
(島木赤彦)

10月25日正午必着

教育部毛筆

遊説

雨宮春聲先生書

ゆう
遊

ぜい
説

中学一年

熟練

菅井松雲先生書

じゅく
熟

れん
練

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

し
写

しん
真

小学五年



横川春川先生書

てん
展

じ
示

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月25日正午必着



さん
山

りん
林

小学三年

藤田幸春先生書



ち
地

ほう
方

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ぬ

し

小学一年・幼年



森戸春濤書

お

こめ
米

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

西の空をまっかにそ
める夕焼けの美しさ

小学五年

血のにじむような苦
心と努力を重ねる

小学六年

人生は愛によってその
生命は精神なり

中学

見わたす限り雲はなく
夜空に浮かぶまるい月

一般(級位)

撫子の花ちりすに
わがまう秋ぞ近くなるらし

一般(段位)

撫子(なでこ)の花(はな)ちり(かた)すに(に)なる(な)らし(ら)し(後撰和歌集・読人しらす) ※ちり方(かた)：散る(かた)頃・時期

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

て	ぶ
	ら
あ	ん
そ	こ
び	に
ま	の
す	つ

幼 年

白	う
い	み
	の
と	か
う	な
だ	た
い	の

小学一年

あ	み
そ	ん
び	な
ま	で
し	元
よ	気
う	に

小学二年

て	赤
も	い
き	タ
れ	日
い	が
で	
す	と

小学三年

化	ど
石	う
が	く
み	つ
つ	で
か	動
っ	物
た	の

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。